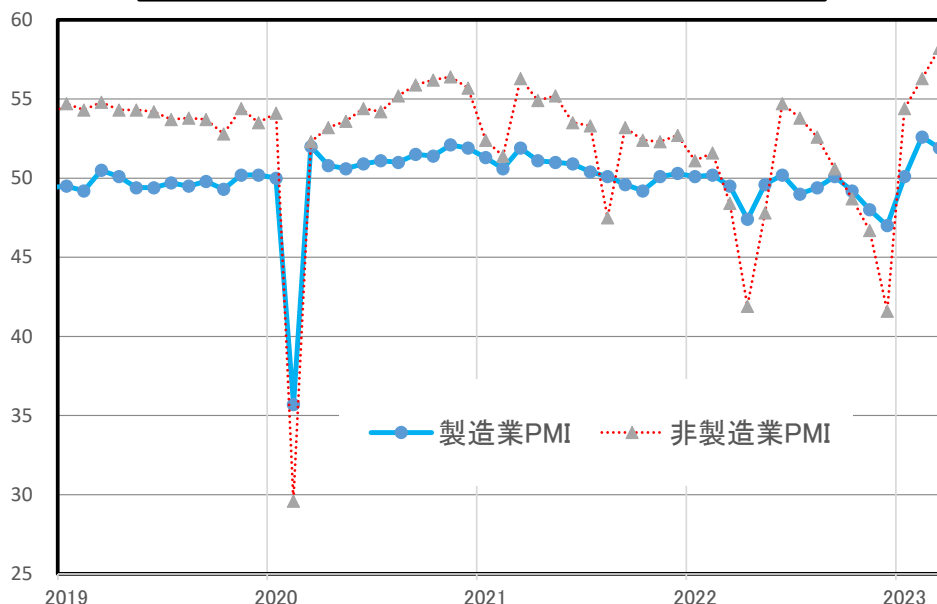


(中国) 高まるデフレ懸念

22年末に新型コロナ感染対策が大幅に緩和されたことを受けて、中国経済がどの程度持ち直したのかを確認するうえで、4月18日に発表される1～3月期のGDP統計と3月の小売や固定資産投資などの経済指標が注目されている。こうしたなか、以下では、最近発表された3月の購買担当者景気指数(PMI)、物価統計(CPIとPPI)、金融統計(社会融資規模や金融機関の新規貸出)、貿易統計(輸出入)の動向を紹介しよう。

図表1 中国の製造業PMI・非製造業PMIの推移



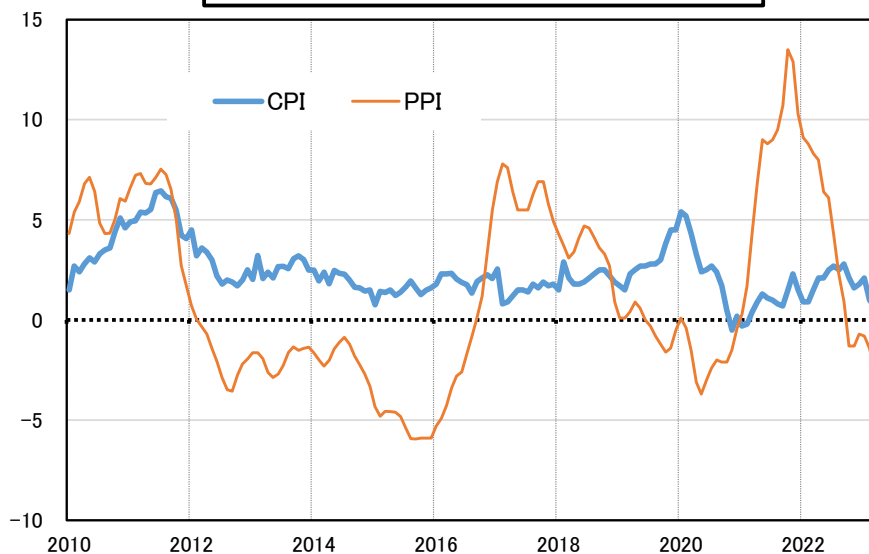
(資料) 中国国家统计局、Windより作成、直近は23年3月。

中国国家统计局が発表した3月の中国のPMIは、3か月連続で判断基準となる50を上回った。まず、3月の製造業PMIは51.9と2月(52.6)から低下したが、3か月連続で判断基準となる50を上回った(図表1)。規模別にみても、大手企業、中堅企業、零細企業はそれぞれ53.6、50.3、50.4といずれも50を上回っている。ただ、構成指数を確認すると、新規輸出受注が50.4と辛うじて50を維持したほか、雇用も49.7と2月(50.2)から再び50を割り込んでおり、ここから製造業における海外需要の弱含みや雇用の悪化が見てとれる。

また、3月の非製造業PMIも58.2と2月(56.3)から上昇し、3か月連続で50を上回った。業種別では、サービス業PMIは56.9と2月(55.6)から上昇したほか、建設業も65.6と2月(60.2)から大きく上昇し、好調さが続いている。このように、コロナ感染対策の大幅緩和に加えて、内需拡大策による政策効果もあり、非製造業の企業マインドの改善が加速しているが見てとれる。ただ、製造業PMIと同様、非製造業PMIにおいても新規輸出受注、雇用がそれぞれ48.1、49.2と再び50割れに転じるなど、2月から悪化した。

(%前年比)

図表2 中国のCPIとPPI上昇率の推移



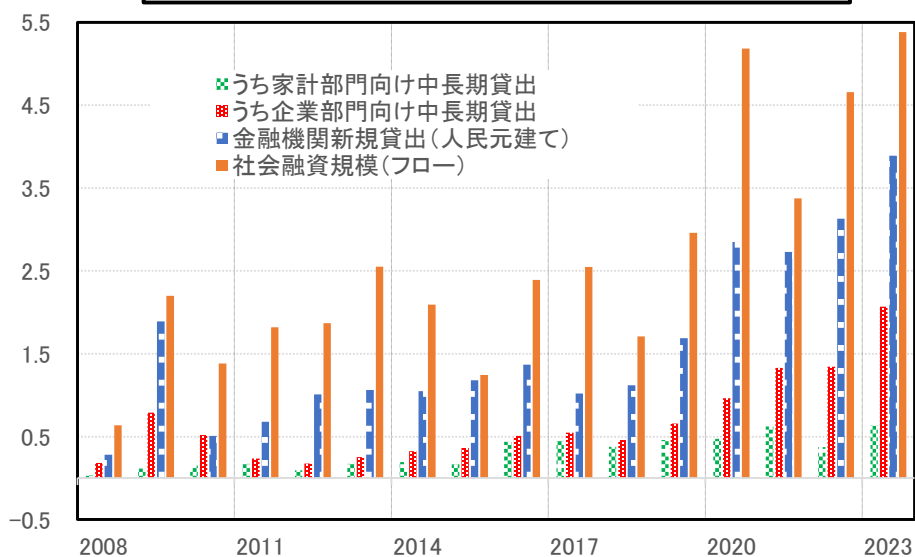
(資料) 中国国家统计局、Windより作成、直近は23年3月。

一方、4月11日に発表された3月の消費者物価指数(CPI)と工業生産者物価指数(PPI)はともに弱い内容となった。そのため、市場では中国経済がデフレに陥りつつあるとの懸念が高まっている。まず、CPI上昇率は前年比0.7%と2月(同1.0%)から鈍化した(図表2)。その背景には、天候が暖かくなり、野菜供給が大きく増加したことで生鮮野菜が急落したほか、繁殖用母豚の飼養頭数が前年比1.7%の4,343万頭(23年2月末時点)に増えたことなどを背景に豚肉価格も下落基調にあることが挙げられる。他方、前月比では▲0.3%と2月(▲0.5%)からマイナス幅が縮小した。

また、3月のPPI上昇率も前年比同▲2.5%と2月(同▲1.4%)からマイナス幅が拡大した。欧米の銀行経営不安がくすぶるなか、欧米の経済減速懸念が高まり、国際商品市況が調整されたほか、コロナ禍の後遺症が色濃く残っているため、中国国内総需要の持ち直しテンポが弱かったことが要因として挙げられる。なお、前月比では0.0%と、2月と変わらなかった。

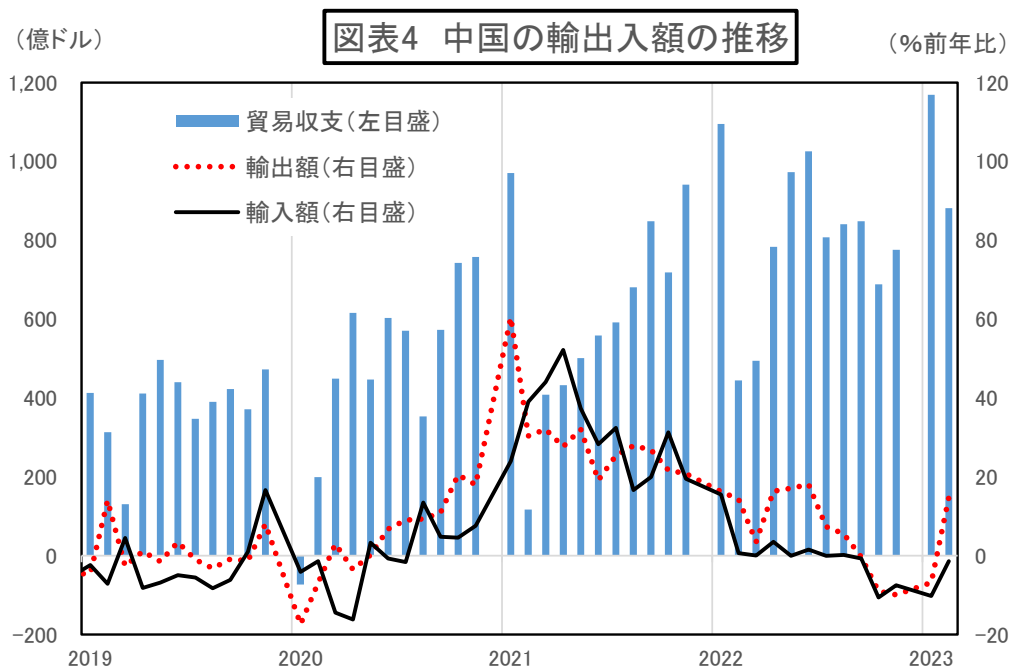
(兆元)

図表3 3月の社会融資規模と金融機関新規貸出



(資料) 中国人民銀行、Windより作成

その半面、中国人民銀行(中央銀行)が4月11日に公表した3月の金融統計(社会融資規模や金融機関新規貸出など)は市場予想を大きく上回った。社会融資規模(フロー)は5.38兆元(約108兆円)と3か月連続で市場予想額を上回った(図表3)。また、金融機関新規貸出(人民元建て)も3.89兆元と4か月連続で市場予想額を上回った。金融機関新規貸出の内訳をみると、企業部門向け中長期貸出、家計部門向け中長期貸出はそれぞれ2.07兆元、0.63兆元と、ともに過去最多を更新した。企業部門の資金借入額が増大し続けているほか、住宅ローン需要の持ち直しなどを背景に、家計部門の資金需要も比較的堅調だったとみられる。



(資料) 中国海関総署、Windより作成、直近は23年3月、2月数値は1月と2月の合計。

中国の海関総署が4月13日に発表した3月の輸出額(速報、米ドル建て)は前年比14.8%の3,156億ドルと6か月ぶりのプラスに転じ、予想外的大幅増加となった(図表4)。前月比では47.5%となった。その結果、23年1～3月期の輸出額は前年比0.5%の8,218億ドルと小幅ながらプラスとなった。国务院新聞弁公室(The State Council Information office)が開催した1～3月期の輸出入情勢についての記者会見(4月13日、海関総署スポークスマン兼統計分析局長呂大良氏)によると、主要先進国の成長減速による外需の弱含みや地政学リスクによる影響があったものの、コロナ感染対策の大幅緩和を受けて職場復帰・生産復帰が加速し、輸出企業が自ら先進国だけでなく、中南米やアセアンなどへの市場開拓に伴う受注獲得に成功し、とくに世界の脱炭素化の進行を受けて、「新三種」とも言われる電気自動車、リチウムイオン電池、太陽光電池の1～3月期の輸出が前年比66.9%と大きく伸びたことなどが拡大の要因として挙げられるとした。

一方、3月の輸入額は前年比▲1.4%の2,274億ドルと1～2月期(同▲10.2%)からマイナス幅は大きく縮小したものの、依然軟調であった。その結果、23年1～3月期の輸入額は前年比▲7.1%の6,171億ドルとなった。なお、人民元建ての23年1～3月期の輸出額は前年比8.4%の5兆6,484億元、輸入額は前年比0.2%の4兆2,393億元、貿易黒字額は1兆4,090億元であった。